

Campus Today



2024



【梅は咲いたか、春の兆し】 〈撮影：石川 絃一 特任教授〉

年頭のご挨拶

歯学部長 宇田川 信之



あけまして
おめでとうございます。

松本歯科大学創立52年目の『Campus Today』新年号です。創立者 矢ヶ崎 康博士が掲げた「建学の理念」に想いを馳せ、教育に欠くべからざる「愛」の精神を忘れることなく、大きな希望を抱え未来へ向かって歩んでまいります。

本学の建学の理念に登場する佐久間象山先生（江戸時代後期の信州松代藩士）は1864年（元治元年）に京都にて不遇の暗殺死を遂げました。今から160年前のことです。彼の日本の近代化を目指す基盤は、「科学活動」にありました。この科学活動の発展が日本の本質を高めてきたわけです。そして、矢ヶ崎 雅理事長は、「国民の健康・生活を支える担い手」を育てる松本歯科大学の使命は、科学活動の世界的展開すなわち「教育と研究の有機的結合」であると喝破されています。

昨年の本学のトピックスを総括します。
歯学部においては、第116回歯科医師国家試験の本学の卒業合格率は93・1%となり、全国29歯科大学・歯学部の中で3年連続第2位の好結果となりました。第114回は95・4%、第115回は90・4%で、直近3年間の平均合格率は93・0

%の安定した成績をおさめています。川原一祐学長の下、本学の教育目標である「信頼される歯科医療人および研究者の育成」のため、さらなる熱い力を傾注しましょう。

大学病院においては、樋口 大輔病院長・佐藤 晶副病院長・笠原哲三事務長の下、病院改革がスタートし、軌道に乗り始めました。歯科診療部門と健診センターにおいては、歯科医師養成機関としての機能を果たしつつ、過去最高の医療収入を更新しました。東京におけるサテライトクリニックとして、「松本歯科大学銀座8丁目クリニック」（矢島安朝院長）が7月に開院しました。都市型診療モデルを学ぶための教育研修施設としての活用が期待されております。

また、6月に日本歯科医師会長に就任された高橋英登会長（本学客員教授）と連携しながら、今後の「国民皆歯科健診」のスタートに向けて、さまざまな施策を実行に移してきました。その一つとして、本学衛生学院歯科衛生士学科の入学定員増（50人→100人）変更承認計画も順調に推進しています。
新型コロナウイルス感染症（COVID19）に立ち向かい、地域貢献のための本学におけるコロナワクチン接種は延べ6万回に達し、塩尻市の人口に匹敵する数となりました。コロナ禍の終息に伴い、松濤

祭の開催や河北医科大学との研修交流活動も復活しました。研究活動も活発に遂行され、日本顎咬合学会（黒岩昭弘教授）、日本レーザー歯学会（亀山敦史教授）、日本障害者歯科学会（小笠原 正臨 床教授）、日本咀嚼学会（増田裕次教授）、歯科基礎医学会（宇田川信之教授）の学術大会が大会長や理事長として開催され、歯科医学研究発展の舵取りを担っております。

一陽来復の春を迎えた今月には、口腔顎顔面外科学講座の栗原祐史教授が大会長となり、本学で「第8回国際歯科医療安全機構総会・学術大会」が開催され、多数の本学教授が特別講演を行います。

我が国は、2040年に高齢者人口がピークを迎えるとともに、現役世代の生産年齢人口の急減が同時進行し、国内経済や社会維持が危機的状況に陥るとされています。そして2040年には、大学進学者数が現在の80%となる予想です。独自性を発揮して今まで発展してきた松本歯科大学の存続・発展のためには、本学に勤務する我々一人一人が担当分野を自ら解析・改革していくことが重要です。このことこそ、本学の運営基盤の強化に直結するわけです。本年も皆様のご多幸と松本歯科大学のますますの発展を心からお祈り申し上げます。2024年が幸ある年となりますように。

飯島勲が教える 人望力を上げる5大法則

内閣官房参事 松本歯科大学常務理事 飯島勲 特命教授

今年号は「ブレジデント」新年特別号「運をつかむ習慣」より、人がついてくる！助けてくれる！「人望力を上げる」5大法則の全文を紹介します。

「数は力」を 体現する永田町

永田町で生き残るには、どれほど多くの人を集められるかが勝負を分ける。自分の政策を後押ししてくれる味方議員、優秀な秘書やブレーン、そして支持者。そのすべてが必要だ。

故田中角栄元首相の「政治は数、数は力だ。そして力は金だ」という発言がよく知られているが、最後の「力は金だ」はともかく、その人物にどれだけの人望があるかが、政治家の運命を決定づけることは、角さんの時代から変わらない。

日本国憲法では、立法（国会）、行政（内閣）、司法（裁判所）の三権分立によって、権力の濫用を防ぐように定められている。しかし、政治の世界ではもう一つ、絶妙なバランスで並び立つ3つの勢力がある。「国民」「政治家」「官僚」である。「人」を集める力を身に付けるには、この3つのパワーバランスを正確に把握する必要がある。

まず、政治家は投票権を持つ国民には弱い。一方で人事権があるため官僚には強い。国民は政治家には強いが、法律を執行する官僚には弱い。官僚は国民には強く出られるが、政治家には頭が上がらない。つまり、3者にはそれぞれ強みと弱みがあり、100%の権力を握ることはできないのである。

では、3者のパワーバランスで政治が動く例を挙げてみよう。仮に、何か新しい施策を始めるための予算が足りないとする。こうなると、国民に対して強く出られる官僚は、政策実現

を起して大勝した。土井たか子委員長の「山が動いた」という名言はあまりにも有名だ。ただ、当選したマドンナたちは、国会ではほとんど成果を残せずに次の選挙で落選した。当時の大蔵省主税局の担当者が直間比率の説明に行っても「関係ない。消費税反対！」というばかりで話にならなかったというエピソードが伝わっている。消費税が増税を受けると、選挙で国民の審判を受ける政治家は簡単に増税に賛成できない。消費税など国民に負担がかかる税目は変えられないので、「落としどころとして、たばこ税を上げるのはどうか」といったやりとりが行われる。こうして立場の弱い愛煙家が狙い撃ちされてしまうのだ。政治家が力を発揮するには、生殺与奪を握っている大多数の国民の関心事を理解する努力が必要で、その要望に応じて支持を得なければならぬ。国民の支持を得るにも、単純に政治家個人の人気を高めるパフォーマンス型の手法と、政治家の仕事内容の評価を高める方法の2通りがある。

例えば、ネクタイの色一つで、好き嫌いが分かれてしまう場合もある。外見が美的かそうでないかが得票数の分かれ目になることもある。選挙ポスターの写真で当落が決まることもあるから、政治家は外見の研究も必要になる。元アイドルの国会議員が次々に誕生するのも、ある意味で有権者のニーズに合わせたものかもしれない。しかし、国民の目は節穴ではない。当初は外見やパフォーマンスに気持ちが動いたとしても、内容が伴わなければすぐに離れる。

古い話になるが、消費税導入が争点となった1989年の参院選で、当時の日本社会党は、消費税反対を訴える女性候補者を前面に立て「マドンナ旋風」

飯島直伝！ 人望力を上げる5大法則

- 1 人を信頼し、仕事の裁量権を大きく与えよ。
- 2 私利私欲なく、人のために仕事をせよ。
- 3 世間が何を欲しているか、リサーチして理解せよ。
- 4 好感を持たれる見た目や、パフォーマンスを心掛けよ。
- 5 仕事に対して実直に打ち込む姿を見せよ。

現在も、菅前首相に対する国民の高い評価は定着している。一般受けする外見もパフォーマンスが得意でなくても、政策の実現力だけで、国民の人気を得た希少な例といえる。現在の岸田文雄首相も菅前首相と同様に、パフォーマンスに頼らない実務型の政治家である。外交という得意分野もあり、粛々と政策を実施すれば評価は高まっていくはずなのだが、最近支持率が下がってきたためか、わかりやすい減税など、スタイルにブレが出てきたのが心配である。

気になっているのが、ライディエアの導入である。運転手の時間外労働の規制強化で物流や旅客の輸送に大きな影響が出る。これが予想される「2024年問題」の対応策として、ライドシェアを導入すべし、という議論がある。現在、積極派と慎重派が拮抗しているようだが、一時の国民感情に流されるような形で、準備が整わないうまま導入されるのはよくないと思う。話

題づくりのために拙速に導入すれば、後々大きな問題が発生する可能性があることを考慮すべきである。国民の感情ではなく、国民の本当の利益に目を向けることが、政治家の真の実力につながる。

あなたのために 死ねる軍師はいるか 「人を集める」という意味では、事務所スタッフの採用も含まれる。戦国大名・武田信玄の軍師と

からこそ、元患者との面会は、首相の決断のあとでなければならなかった。先に面会してしまふと、原告団の圧力で控訴断念を決めたように見えてしまうからだ。そして、控訴断念の発表後に、原告団を官邸内に招き、涙ながらに元患者と接する首相の姿に、支持率は80%以上にまで跳ね上がった。ちなみに、もしも当初の政府方針通りに控訴すると決めた場合は、逆に追い返さず中に入ってもらってお茶を出してもなさそうと考えていた。山本勘助が軍師として作戦を立案しても、歴史には武田信玄の勝利として記録されているのと同様に、私が秘書官として何をやらうと、すべて小泉純一郎元首相の実績であるという事実には変わらない。秘書は仕える政治家の名の下で、政治家のためだけに行動するという原則は曲げられない。うまくいけば政治家の実績、ダメなら秘書の責任。それが鉄則である。この原則をわかっているか、そしてこの原則を守れるかどうか、優秀な秘書を見極めるポイントだ。まったく報われない仕事のように見えるが、仕える政治家の力が大きくなればなるほど、秘書のやりがいも大きくなる。何をやっても自分の手柄にならないという状況でも、誇りを持って仕事を続けられるようになる。

第4学年 歯科補綴学実習Ⅱ 支台築造とCAD/CAMについて理解深める

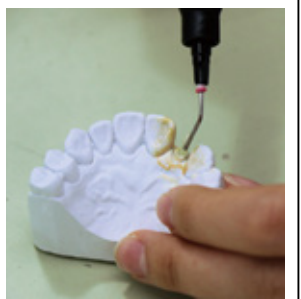


デジタル機器を用いたCAD/CAM実習

第4学年歯科補綴学実習Ⅱでは、近年の歯科医師国家試験に対応すべく、11月10日(金)にファイバーポストを併用した支台築造実習、11月17日(金)には最新のデジタル機器を用いたCAD/CAM実習を行った。いずれも歯科補綴学実習Ⅱの開講以来の初めての試みである。

ファイバーポストを用いた支台築造およびデジタル技術を用いたCAD/CAM実習は、近年、歯科医師国家試験での出題が多く、特に臨床問題が頻出していることから、本学歯科補綴学講座としては座学だけでなく実技を学生に学ばせることが急務であった。

支台築造実習においては、実際に臨床で用いられているファイバーポストを用いて、直接法および間接法によるレジン支台築造を行い、製作方法の違いについて理解を深めた。



支台築造実習

光学印象機器と、1台のCAD(ミリング機器)の提供を受け、実施された。今回学生たちが3種類の光学印象機器の実機に触れ、自ら光学印象を行うことは、座学では得られなかった体験であり、それぞれの違いについても理解を得られたことは、大変教育効果が高いと考えられる。

川原一祐学長が阿部守一長野県知事と意見交換 女性・若者から選ばれる信州に

県内の大学学長と阿部守一県知事との懇談会が11月27日(月)に県庁内で開かれ、本学の川原一祐学長をはじめ国公私立10大学の学長が出席し、「女性・若者から選ばれる県にするには」をテーマに意見が交わされた。



知事との懇談会に参加した川原学長(左)

川原学長は「松本歯科大学は全国各地から学生が集まり、歯に無料で宿泊してもらい、自然豊かなキャンパスと充実した施設を体感してもらえようという体験入学を実施していることを説明した。さらに、衛生士を養成する専修学校・松本歯科大学衛生学院は、長野県歯科医師会の要請を受け、より多くの学生に学んでもらい、県内に就職してもらうために入学定員の拡大を申請中であることを明らかにした。

阿部知事からは各大学の学生の住環境について質問があったが、ほとんどの大学は学生寮を完備しておらず、学生寮を有する本学の取り組みが際立つ結果となった。学長側からは「県外に向けて信州の学びの特色をもっとPRしてほしい」との要望が出され、阿部知事は「ものづ

松本歯科大学学会(例会) 大学院・加藤慎也先生が 優秀発表賞を受賞

第96回松本歯科大学学会の例会が11月30日(木)に開催された。今回の学会も歯科医師、歯科技工士より演題申し込みがあり、ポスター発表形式で発表された。限定された時間内の自由討論とし、発表者はポスターの前で質疑応答に対応する形式とした。



指導教員に祝福される加藤先生(中央)

松本歯科大学学会は大会の発展と向上を目的に優秀発表賞・特別賞を設定し、評議員による投票を行っている。今回は、優秀発表賞を大学院健康増進講座の加藤慎也先生が、特別賞を小児歯科学講座の森山敬太先生が受賞された。

加藤先生の発表は「β-グリチルレチン酸がヒト肉肉縁上パオフィルムに与える影響の解析」であり、β-グリチルレチン酸(BGA)のヒト肉肉縁上菌垢から採取した細菌(口腔細菌)によるパオフィルム(縁上菌垢BF)への影響を解析された。その結果、口腔細菌に対するBGAおよび塩化セチルピリジニウム(CPC)の口腔細菌に対する最小発育阻止濃度(MIC)は、それぞれ128 mg/mlおよび40 mg/mlであった。また、この濃度を縁上菌垢BFに作用させLive/Dead染色を行ったところ、抗菌物質を含まない対照群の全細菌に対する死菌の割合は40.0%であったが、CPCは85.7%、BGAは60.0%であった。6時間曝露後に得られた浮遊細菌の

今後、歯科補綴学講座として、最新の歯科技術を実習に取り入れて、学生たちの興味を引く実習を行ってみたい。

講師はホテルシエラリゾート白馬の金澤光久総料理長で、信地区から市民13人が参加し、自宅で簡単にできる「噛んでおいしいフレンチ」をテーマに、アワビ茸のグラタンと、レタスのステーキの2品の作り方を学んだ。



金澤総料理長による料理教室

「噛んで美味しいフレンチ」を伝授
カムカムメニュー料理教室
本学は「よく噛んでおいしく健康に」をテーマに、食感や噛み応えのあるカムカム(噛む)メニューの普及を推進してきたが、その活動10周年を記念して「カムカムメニュー料理教室」を11月18日(土)、塩尻市市民交流センター(えんぱーく)で開催した。

今後も歯科補綴学講座として、最新の歯科技術を実習に取り入れて、学生たちの興味を引く実習を行ってみたい。

リープオイルで炒め、ニンニクとレモンの香りを効かせた。外はやわらかで中はシャキシャキ、トマトや玉ねぎ、アボカドを刻んだソースで味わいながら、よく噛めるように仕上げた。



アワビ茸のグラタン
レタスのステーキ

秋季東海歯医歯薬サッカー大会が10月28日(土)に浜松医科大学グラウンドにて行われ、我々サッカー部は岐阜薬科大学と対戦し、4対2で勝利しました。試合は、後半に宮田星南(第4学年)選手が先制ゴール! ところが相手チームに立て続けに得点され、1対2と逆転されてしまいました。しかし焦らずに森神一郎(第3学年)選手が同点弾。続けて再び宮田選手が逆転のゴールを決め、試合終了間際には松山悠(第5学年)選手がダメ押しの得点をして勝利を手に入れました。



ダメ押しゴールを決め喜ぶ選手たち

2023年の成績は4試合に出場し2勝2敗という結果になりました。サッカー部は今年、MDUのエンブレムが生える水色のユニフォームを新調し、天然芝のグラウンドで練習できることに喜びを感じ、集中して練習に励んでいます。来年は春と秋の東海歯医歯薬サッカー大会とデンタルを含め6試合をこなす。上位入賞を目指して頑張りたいと思います。

毎年、例会は発表数が少なくなりますが、参加者が多く盛大な活気ある学会が開催できました。次回の大会もポスター発表による自由討論とする予定です。第97回学会(総会)は2024年7月4日(木)に開催予定でありますので、皆様の参加をお待ちしています。

Alumni News

松本歯科大学校友会

長野県支部

県内出身の在學生と交流 4年ぶりに懇親会を開催



有賀先生(中央左)、横山先生、笠原先生

校友会長野県支部は毎年、支部会員と「大学教職員・長野県出身在學生との交流会(学術講演会および懇親会)」を開催している。学術講演会は、長野県で活躍している校友の先生に講師をお願いし、開業歯科医師として最新の臨床現場での取り組みや工夫等を学生にも理解しやすい内容でご講演いただいている。

11月18日(土)、4年ぶりに懇親会が本学中国料理レストラン・スターグラストにて開催された。在學生が自己紹介や近況を話し、総勢40名の同郷の先輩後輩同士和気あいあいと情報交換を行った。学生と同じテーブルに座った横山猛嗣支部長(4期)有賀功先生(3期)笠原哲三先生(4期)藤森恒美先生(10期)山崎一郎先生(12期)小嶋勤先生(15期)砂原佳子先生(15期)松山英基先生(16期)小林敏郷

先生(17期)堀忠士先生(17期)山本朋章先生(23期)岡本望先生(33期)から温かいエールの言葉が述べられた。大学側からは、黒岩昭弘教授

OB同士が竹刀交え現役部員とも交流 剣道部OB会総会・稽古会

10月21日(土)、図書会館内の中国料理レストラン「スターグラスト」において、剣道部OB会の総会が開催されました。北海道から大阪まで、また1期生から46期生(今春卒)までのOBと現役部員が参加し、盛大に開催されました。大学からは岡山大学歯学部剣道部を創部された総合歯科医学研究所教授の十川紀夫先生が来賓として、また剣道部顧問の解剖学講座教授・金銅英二先生が臨席下さいました。



稽古会に参加されたOBの先生方と部員たち

11月10日(金)から12日(日)まで、小雪がちらつく天気の中、ロイトン札幌を会場として、第40回日本障害者歯科学会総会および学術大会が開催された。昨年より、小笠原正臨床教授が公益社団法人日本障害者歯科学会理事長に就任しており、今回理事長として2回目の学術大会であった。北海道大学大学院歯学研究科の八若保孝大会長(小児・障害者歯科学教室教授)が大会長として「笑顔こぼれる明日へー持続可能な社会ととも」をテーマに、様々なプログラムが準備された。

光を放つ本学の障害者歯科学分野での実績 第40回日本障害者歯科学会総会・学術大会

科医療の舞台に動員しなければならぬ。これが心身障害を背負って人生を旅する人たちの福祉に貢献するための我々の精一杯の活動だろ(故 酒井信明先生)を引用された。今後、地域の会員が障害者歯科医療を安心、安全に取り組めるように建設的な活動を行っていくこと、会員が安心・安全な障害者歯科医療に取り組めるように地域医療のための環境作りこそが障害のある人への貢献だと考えたと述べた。

学術大会教育講演では、本学から鈴木香保利大学院生が「歯科衛生士における自閉スペクトラム・座談会や小笠原理事長による理事長講演が行われた。日本障害者歯科学会、前身である「日本心身障害児・者歯科医療研究会」が1973年に発足してから50年目、1984年の障害者歯科学会の発足から40年目となる。

小笠原理事長の講演において、1980年の障害者歯科学雑誌1巻1号の巻頭言「障害者を医学、心理学、教育学、社会学、法学、福祉学等々おびただしい認識分野からの情報を用いて知り、これを整理したうえで、歯

第419回大学院セミナーが11月14日(火)、大阪大学大学院医学系研究科の石井優先生をお迎えし、開催された。石井先生には、「生体骨イメージングの最先端」という演題名で講演いただいた。

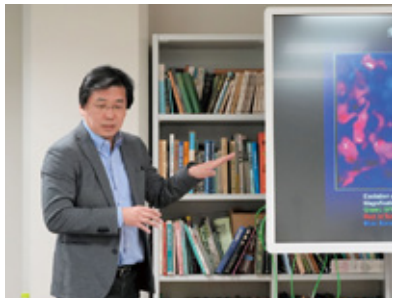
大阪大学大学院・石井優教授 「生体骨イメージングの最先端」講演

1つ目は「壊す場所は破骨細胞が認識しているのか」という問いについて解析を行い、他の破骨細胞が通過し、骨吸収を行なった部位では破骨細胞は骨吸収を行わないことから、「壊す場所は破骨細胞が認識している」ということを解説していただいた。

2つ目は骨組織においてほとんど動かない骨芽細胞を非破壊検査により観察して結果明らかにしたということについて説明され、骨芽細胞は小胞 (small osteoblast vesicle: SOVs) を分泌し、骨芽細胞自身が SOVs を取り込むことで骨芽細胞マーカーの抑制・RANKLの上方制御・OPGの下方制御を行うことで骨形成期から骨吸収期の移行に寄与していることを解説された。

3つ目は「破骨細胞は1種類だけなのか」という問いについて解析を行い、正常な破骨細胞とは異なり関節破壊を行うような「悪玉破骨細胞」は常に骨吸収を行っていること、また悪玉破骨細胞は正常な破骨細胞と前駆細胞が異なることを示された。悪玉破骨前駆細胞を「arthritis-associated osteoclastogenic macrophage: AtOM」と命名し、今後「AtOM」を標的とした新たな治療薬開発が期待されると説明された。

世界に先駆けた研究成果を分かり易く解説していただき、活発な質疑応答が交わされた有意義な大学院セミナーであった。



研究結果について解説する石井先生

(歯学部歯科基礎学 岩本利奈)

Matsumoto Dental University SNS Information

LINE:

twitter:

Instagram:

facebook:

人事異動

採用(再任) 12月1日付
海野 俊平 (歯学部歯科基礎学 准教授) 18日(木) 定期試験(第1~3学年)
黒岩 博子 (歯学部小児歯科 准教授) 26日(金) 臨床実地試験CPX(第5学年)
森山 敬太 (歯学部小児歯科 准教授) 27日(土)~28日(日) 一斉技能試験CSX(第5学年)
富士 岳志 (歯学部小児歯科 准教授) 29日(月) 第17回歯科医師国家試験(東京)
笠原 隼男 (歯学部歯科基礎学 准教授) 31日(水) 創立記念日(60周年)
採用 12月12日付
宮嶋 秀明 (事務局学事課 事務局長) 29日(月) 創設記念日(60周年)
石曾根恵美 (歯学部歯科基礎学 准教授) 31日(水) 共用試験CBT(第4学年)

受験生の皆さんへ

見せてほしい 君の個性 君の情熱

一般選抜(I期)
共通テスト利用選抜(I期)

●試験日
2024年2月2日(金)・3日(土)
◎希望する試験日を選択、または両日の受験も可能です。共通テスト利用選抜は、個別試験はありません。

●出願期間
1月5日(金)~1月29日(月)

●試験場
本学・東京・大阪・福岡

12月19日付

高見 忍 (歯学部歯科基礎学 准教授)
中根 美紀 (歯学部歯科基礎学 准教授)
古 曠雲 (歯学部歯科基礎学 准教授)

1月行事予定
4日(木)~5日(金) 卒業試験(第6学年)
9日(火)~11日(木) 後期定期試験II(歯生学院第3学年)
13日(土)~14日(日) 大学入学共通テスト
14日(日) ファウンダーズデイ
15日(月)~26日(金) 定期試験(第1~3学年)

お問い合わせ
HOT LINE 0263-54-3210
松本歯科大学 入試広報室
www.mdu.ac.jp